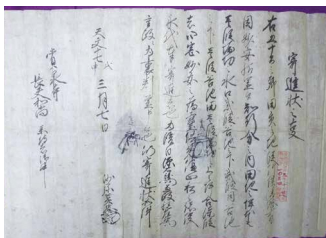




- 合併前
上越市①
- 合併前
上越市②
- 合併前
上越市③
- 安塚区
- 浦川原区
- 大島区
- 牧区
- 柿崎区
- 大湊区
- 頸城区
- 吉川区
- 中郷区
- 板倉区
- 清里区
- 三和区
- 名立区

28 しょうせんじじほう 賞泉寺寺宝



直峰城主の菩提寺に伝わる 賞泉寺寺宝

明応7年(1498)、直峰城五代城主吉田周防守英忠開基の賞泉寺に伝わる寺宝、吉田英忠寄進状、長尾晴景安堵状、吉田周防守英忠夫妻墓、木造阿弥陀如来坐像です。天文15年(1546)の吉田英忠寄進状には、英忠が越後守護代長尾能景と為景父子、英忠父祖の菩提を弔うために寄進したことが記されています。本堂に安置される木造阿弥陀如来坐像は、安塚区石橋の阿弥陀堂から移されたもので、平安時代末期の制作と伝えられています。

- 吉田英忠寄進状 (上)
- 木造阿弥陀如来坐像 (下)

宗教法人 賞泉寺

所在地 ● 上越市安塚区安塚1345(賞泉寺)



33 ぼうがねのおおすぎ 坊金の大きな大スギ



上杉謙信公が直峰城との
連絡のため鐘を吊るしたと伝わる
樹齢 800 年の大スギ

霧ヶ岳中腹、通称高山にある坊金神社の御神木です。樹齢 800 年以上、目通り 8.5 m、樹高 25 m、枝張径 26 m で、四方に枝を張り葉をつける様は、森林のようにも見えます。大スギから西、ほぼ同じ高さに直峰城跡(標高 344 m)を望むことができます。直峰城在城時代の城主が時報の鐘をこの木の枝に吊るしたとも、謙信公が直峰城との連絡のためスギの枝に鐘を吊って連打して合図したとも伝えられる大枝があります。

📍 坊金の大きな大スギ全景。大スギのたもとでは、町内会の祭りも行われる。

坊金町内会

所在地 ● 上越市安塚区坊金5646



60 のうみねじょうあとときゅうみくにかいどう 直峰城跡と旧三国街道



三国街道を眼下に望む
戦国の重要拠点直峰城と、
関東へ通じる三国街道

直峰城(新潟県文化財)は、直江津の越後府中から関東へ通じる三国街道(松之山街道)の拠点として、重要な位置を占めた山城です。南北朝時代の風間信濃守信昭の居城とされ、歴代城主には吉田周防守秀忠や、直江津兼統の父である樋口兼豊などがいます。標高 344 m の急峻な独立峰に郭、空堀、土塁が巧みに配置された堅固な山城です。麓を通る三国街道(上越市文化財)は謙信公の関東出陣の道として知られ、往時の道形や敷石が残ります。

📍 謙信公祭での狼煙上げの様子(上)
旧三国街道(松之山街道)の石畳(下)

直峰城跡保存会

所在地 ● 上越市安塚区安塚字倉刈門2037ほか



67 よこおよしともきねんかん 「横尾義智記念館」



日本唯一のろうあ者村長の
功績を伝える記念館

明治 26 年(1893)行野村大地主の長男として生まれ、日本で最初にろうあ者の村長となった横尾義智の功績を伝える記念館です。生家跡の旧年貢倉庫を利用してゆかりの品々を展示しています。大正 4 年、父の死去に伴い家督を相続し、昭和 9 年から 12 年間小黒村長を務めました。大凶作の折には、備蓄米を放出し、県へ陳情し米の貸与を受けるなど村民の救済に全力を注ぎました。

※生家跡の「旧横尾義智家雪室」は国登録有形文化財

📍 記念館の外観(上)
展示風景(下)



行野自治会

所在地 ● 上越市安塚区行野1048-3
(横尾義智記念館)



112 えんたいらぼうのかんぜおんぼさつ 円平坊の観世音菩薩



地名の由来となった堂守が
守護していた観世音菩薩

円平坊集落にある、観音堂の本尊です。縁起によると、文永 8 年(1271)、御嵯峨天皇の子、宗尊親王より朝日奈三郎義秀と与えられた仏像とされています。義秀は像を守って諸国を巡り、弘安 4 年(1281)にこの地で小庵を建て小林円平坊と称し、堂守になったとされます。像高 15 cm、鑄鉄製で、鎌倉時代の制作とされています。秘仏であり、かつては 33 年に一度の御開帳でしたが、現在は 17 年に一度の御開帳となっています。

📍 本尊、観世音菩薩(上)
祭礼時の観音堂(下)



円平坊町内会

所在地 ● 上越市安塚区円平坊字堂ノ下520
(観音堂)





浦川原区

11 虫川の大スギ



地域を見守り続ける 国指定天然記念物

平安時代創立と伝えられる白山神社の御神木です。樹齢1200年以上とされ、幹回り10.7m、樹高27m、南北20mの範囲に、境内地いっぱいに枝を広げています。幹に飾られた結び目が特徴のしめ縄は、毎年4月29日に行われる神社の春祭りに向けて地域住民総出で編み込まれます。木道は、根を保護するため樹木医指導のもと設置されました。最寄りの北越急行ほくほく線の駅は、大スギにちなみ、「虫川大杉駅」と名付けられています。

1200年以上地域を見守り続ける、大スギの太い幹

虫川の大スギを守る会

所在地 ● 上越市浦川原区虫川1492(白山神社)



2 保倉川太鼓



人と和太鼓がおりなす「和の心」 一打一打に魂をこめて

昭和53年に旧浦川原村を活動拠点として発足した太鼓愛好会が前身で、平成3年に持ち曲の名から保倉川太鼓となりました。以降、様々なイベントや祝いの席等で精力的に演奏をしています。曲のスタイルは一般的な「平置き正面打ち」ではなく、斜め台に長胴太鼓を据えた「斜め打ち」を基本とし、短い曲をつなげたメドレー形式の演奏を得意としています。打ち手の気合・気持ち・気迫・魂が聴き手の五感に訴えかけます。

結成40周年記念越後上越和太鼓まつり“一打専心”(上) 躍動感あふれる演奏スタイル(下)

特定非営利活動法人 保倉川太鼓

所在地 ● 浦川原区



29 山田あき歌碑



浦川原が生んだ歌人 山田あき歌碑

菱田で生まれ育った歌人山田あき(1900~1996)の生誕100年を記念して、全国の方々からの寄附により平成12年に建立された歌碑です。あきは高校卒業後に上京し、生涯歌人として東京で過ごしました。歌碑は、あきが子どもの頃に遊び、生涯想い続けていたとされる故郷の菱田大池のほとりにあります。歌碑に刻まれる歌「うつしみの終のあぶらをすてにゆく趣の深山は水の音する」は、あきの切々たる望郷の歌と考えられています。

菱田大池沿いの歌碑へと続く道(上) 歌碑(下)

菱田町内会

所在地 ● 上越市浦川原区菱田大沢口645-1



53 しょうとくたいしぞう 聖徳太子像



鼻取り太子の伝説を持つ聖徳太子像

圓重寺の太子堂に安置されています。ヒノキの寄木造で、像高61cm、肩幅21cmです。眉と切れ長の眼は釣り上がり気味で、目の表情に力があります。菊花等の浮文で飾られ、美しく朱彩された袈裟をまといます。室町時代の制作と考えられています。延宝8年(1680)に虫川の堂から移ったものと伝えられており、虫川で像を信心していた老人に代わり牛馬の鼻取りをして田起こしを手伝ったという伝説から、「鼻取り太子」と呼ばれています。



○ 太子堂と美しい紅葉(上)
聖徳太子像(下)

菱田町内会
所在地 ● 上越市浦川原区菱田622(圓重寺)



118 いいむるかぐら 飯室神楽



クライマックスは天狗と獅子の壮絶な決闘

飯室集落に古くから伝わる里神楽です。村の農作物を荒らす獅子を天狗が成敗する物語風となっており、「獅子の舞」「天狗の舞」「獅子と天狗の舞」の3場面で構成されています。天狗がとうとうと述べる長い台詞が特徴的です。集落の石動神社の春・秋祭りでの神楽奉納や、元旦に各世帯を訪問する正月神楽の舞などが行われています。一時途絶えていたものを、明治19年(1886)に国道工事で来た刈羽方面の人に習い、復興したとされています。

○ 石動神社祭りでの披露の様子(上)
激しい獅子と天狗の決闘の様子(下)

飯室神楽保存会
所在地 ● 上越市浦川原区飯室



39 やくしさんどう 薬師山道



薬師への道 若いチカラで地域の宝の魅力を掘り起こし

細越集落の東に位置する薬師岳(標高約466m)は、古くから信仰登山や地域の里山としての登山が行われていました。近年は過疎化や伝統の廃退により登山者が減っていましたが、活動団体が山道の整備などを行い、「地域の宝」の魅力の掘り起こしを行っています。細越集落の大安寺の南には、かつて地域の方々がお参りに訪れていたという祠のあった小山があり、大安寺にはその小山から数十年前に移したとされる木造の薬師如来坐像が安置されています。

○ プナの原生林を進む薬師山道(上)
薬師山道の歴史を語る山頂の石仏(下)

細越平生会
所在地 ● 上越市大島区大平字トヤ4583-2ほか



40 仁上のほたる



無数のホタルが飛び交う、幻想的な光景

大島区の保倉川沿いでは、季節になるときれいな水辺にしか生息しないといわれるホタルの姿をあちこちで見ることができます。昭和の終わり頃に自然発生的に飛び始めたホタルをまちづくりに活かそうと、地域住民の間でホタル保護の機運が高まり、現在も地域で大切にされています。大島区仁上では、ホタルの育成環境の整備と鑑賞のため、地元有志によりほたる見台、ほたる公園が整備され、毎年ほたる祭りが実施されています。



📍 羽を休めるホタル (上)
ほたる見台 (下)

仁上町内会

所在地 ● 上越市大島区仁上 (ほたる公園、ほたる見台)



現地調査の様子



牧区



54 牧の田植節句・お刈り上げ祝い・とうど呼び



牧に伝わる1年を通じた米作りの文化

牧区では、四季折々の自然の恵みを上手に利用して、ぬくもりのある食事をしてきました。6月の「田植節句」では田植えが無事に終了した労をねぎらうとともに、その年の豊作を願って笹餅やおぼろ汁などを作り、10～11月には「お刈り上げ祝い」としてあんころ餅ときこの汁などで稲刈りが無事に終了したことをお祝いします。そして12月には農作業の手伝いをしてもらった人(「田人(とうど)」)を招いて御馳走をふるまう行事(「とうど呼び」)が行われます。

📍 昔のとうど呼び御膳 (上)
田植節句の様子 (下)



特定非営利活動法人 よもぎの会

所在地 ● 上越市牧区原991
(牧ふれあい体験交流施設内)



66 伝統の盆踊り「十三夜」

でんとうのぼんおどり じゅうさんや



古くから地域で親しまれてきた盆踊り「十三夜」

柿崎区と吉川区で古くから親しまれている盆踊りで、下黒川地区では明治中期頃から、お盆のほか、結婚式や棟梁送りで踊られてきました。十三夜の起源は、延長5年(927)、醍醐天皇の詔により編纂された『延喜式』の「神名帳」に記される頸城郡内の十三社を唄ったものとも伝えられ、「八社五社踊り歌」とも呼ばれたといわれています。また、上杉謙信公の川中島合戦にて行われたとされる車懸りの陣法からきているという説もあります。



📷 盆踊りの様子(上)
地域住民を対象とした踊りの講習会の様子(下)

下黒川「十三夜」保存会
所在地 ● 上越市柿崎区下黒川地区



83 花まつり 白象

はなまつり はくぞう



花まつりで柿崎区内を巡行する大きな白象

お釈迦様の誕生を祝う花まつりと、花まつりで巡行する白象です。最初の花まつりは浄福寺をスタートし、町内を一巡するもので、当時は牛が引く大きな運送用の車に白象を乗せ、長い綱で人の手で引いていましたが、現在は車の荷台に乗せて移動しています。象の骨格はケヤキで出来ており、形態は竹を組み上げ、そこに新聞紙などを幾重に厚く貼り重ね、綿等で凹凸を減らして形づくられています。さらにその上に和紙などを重ね貼り、胡粉(こふん)を膠(にかわ)でといたものを重ね塗り、隈取りの彩色が施されています。



📷 花まつりで柿崎区内を巡行する白象(上)
花まつりの様子(下)

柿崎区連合仏教会
所在地 ● 柿崎区



82 浄福寺本堂と法宝物

じょうふくじほんどうとほうぼうもつ



独特な外観と優美な内観を持つ本堂と寺の由緒を代表する法宝物

浄福寺本堂(国登録文化財)は、明治の大火後の昭和2年に防火を意識して建立された鉄筋コンクリート造の浄土真宗本堂です。エンタシスの丸柱を配した向拝の両脇に、二階建ての建屋を張出しており、和風の洗練された雰囲気とコンクリートによる重厚感を兼ね備えた独特な外観と優美な内観を持っています。浄福寺本堂には様々な法宝物が納められていますが、特に「親鸞聖人御染筆九字名号」と「浄福寺縁起」は浄福寺の由緒を代表する宝物です。



📷 浄福寺本堂(上)
子どもたちの地域学習の様子(下)

宗教法人 浄福寺
所在地 ● 上越市柿崎区柿崎6654(浄福寺)



111 岩手城山

いわでじょうやま



長い尾根を利用し、多くの堀切をもつ山城

尾神岳から日本海に向かって伸びる尾根上に築かれた中世の山城です。標高150m、東西600m、南北450mの範囲に郭・空堀等を巧みに配した規模の大きな山城で、尾根を分断するように30か所以上の堀切が設けられ、守りを堅くしています。城の周囲2km以内には柿崎景家公創設の楞嚴寺、米山別当密蔵院などがあり、城下には柿崎川、大出口川が流れ、川を使った物資の輸送にも適しており、頸北地方の中心であったと考えられています。



📷 本丸近くの堀切(上)
本丸付近に祀られている石祠(下)

岩手町内会
所在地 ● 上越市柿崎区岩手



大潟区



48 古宮台場跡地



へきはびょうぼう 碧波渺茫の砂丘に今も残る砲台跡地

高田藩が築いた台場のうち、行野浜（大潟区犀潟）にあった砲台です。寛政4年（1792）、ロシア船が蝦夷地に来航したことを受け、江戸幕府が沿海の大名に海岸防備を命じました。それをうけて高田藩は天保15年（1844）、領内の海岸に22か所の大筒台場と3か所の遠見番所を築きました。そのうちのひとつがこの古宮台場です。台場跡地からは、天気の良いと東は弥彦山、西は名立まで見渡すことができます。

古宮台場跡地に立つ石碑（上）
台場跡付近から望める日本海（下）

ボランティア団体「だいばま会」

所在地 ●上越市大潟区犀潟北砂原179



30 大潟米大舟



出羽国、酒田の義人が伝えた踊り

米大舟の元歌は山形県の酒田節といわれています。享保の初めの頃、上越地方は度重なる干ばつと長雨により、米の凶作に見舞われました。食糧不足となった大潟の住民は今町（直江津）を訪れていた弁財船（北前船）の船乗り、亀田伊兵衛に助けを求めたところ、伊兵衛は地元酒田から義米を募り、大量の米を運んでくれました。これに感謝した住民は宴の席を設け、そこで伊兵衛が披露した踊りが米大舟の始まりと伝えられています。

大潟かっぱ祭りで米大舟を披露している様子

大潟米大舟保存会

所在地 ●上越市大潟区土底浜及び潟町



86 「新堀川開鑿由来記碑」、 「新堀川暗渠排砂揚水機場」



140年余におよぶ湛水被害克服の記憶遺産

「新堀川開鑿由来記碑」は、潟守新田の神明宮境内に建立され、往古の大潟新田の開発の努力と苦労を後世に伝えていています。「新堀川暗渠排砂揚水機場」は、大潟新田の悪水を日本海へ放流する際に堆積する砂を取り除くために設置されました。それまでは日本海が荒れる度に河口が砂で塞がれ、田んぼが浸水してしまいましたが、現在の揚水機場が完成してようやく、近隣の住民たちは、溜まった砂を取り除いて放流するという苦しみから開放されました。

新堀川開鑿由来記碑（上）
新堀川暗渠排砂揚水機場（下）

ボランティア団体「だいばま会」

所在地 ●上越市大潟区犀潟・潟守新田



91 どんどの石井戸

大潟区



長年にわたり、地域の生活を 支えてきた石井戸

どんどの石井戸は、昭和30年代に簡易水道が整備されるまでの間、潟町下区・九戸浜の住民に水の調達場として利用されてきました。石井戸は、手桶で水を汲み上げてきたため、石の角がこすれにより窪んでおり、長年、地域住民に利用されてきた様子を物語っています。井戸の水は「どんどの池」から引き入れられており、現在も枯れることなくきれいな水を混ぜています。

📷 どんどの石井戸全体の様子(上)
長年の利用で角が窪んでいる(下)



辨天池水道組合

所在地 ● 上越市大潟区九戸浜字西浜116-1



103 大潟町八社五社

大潟区



市



踊り伝えられてきた 頸城十三社の「地固め歌」

八社五社の踊りは、延喜年間(901~923)に醍醐天皇の命によって編集された「延喜式神名帳」に記載された「頸城十三社」の社殿建立の際の「地固め歌」として歌いだされたものと伝えられています。頸城十三社とは、関川の川西にある居多神社(五智)などの出雲系八社と、菅原神社(清里区菅原)などの大和系五社のことです。踊りは二重三重の輪を作り、「ヨンヤーナー」の囃子とともに音頭取りは櫓の上で唄を歌い、太鼓打ちは櫓の下で拍子をとって踊られます。

📷 大潟町八社五社を披露している様子



大潟町八社五社保存会

所在地 ● 大潟区



105 どんどの池(弁天池)

大潟区



どんでん水が湧き出る池、どんどの池

どんどの池は、県道からみて一番奥の水源地、西側の簡易水道の取水池、東側の野菜洗池、北側の洗濯池の4つの池からなっています。池の中央には弁財天を祀った社があります。砂丘地であって、夏場も枯れずにこんこんと水が湧き出る姿が、どんどの池の名の由来になっているとされています。昭和30~40年代頃までは、池に人が集って語らいながら野菜を洗ったり洗濯をしたりと、生活の場であったといえます。また、新潟県の名水にも選定されており、夏には蛍が飛び交います。

📷 池の中央に祀られている弁天社(上)
弁天社の裏にある水源地(下)



九戸浜町内会

所在地 ● 上越市大潟区九戸浜133-1ほか



現地調査の様子





頸城区

ユートピア
くびき希望館

21
22

坂口
記念館

くびきの森公園

くびき

大池いこいの森

大池いこいの森

浦川原区

保倉川

三和区

吉川区



頸城区



22 くびき野レールパーク



頸城平野を駆け抜けた、 貴重な軽便鉄道の車両たち

旧頸城鉄道で活躍した蒸気機関車2号機（コッペル）やDC92、ホジ3などの貴重な車両や資料を保存しています。また、構内には、頸城鉄道旧本社屋や、旧機関庫が解体されずに残っており、現在は資料館となっています。頸城鉄道は大正3年から昭和46年まで、現在の黒井駅からうらがわら駅付近までを結び、当時の貴重な交通手段でした。現在、一部車両は動態保存されており、一般公開時などで乗車体験ができます。

📷 「コッペル」の愛称で親しまれている蒸気機関車

特定非営利活動法人
くびきのお宝のこす会

所在地 ● 上越市頸城区百間町679



21 たきもとてい 瀧本邸



宮大工による書院造の離れと 池泉回遊式日本庭園を有する名家

上越市を代表する豪農の館です。主屋は現存していませんが、表門には武家屋敷によく見られる「薬医門」が堂々と構えられており、迫力と威厳を感じさせます。建物の背後には市内有数の回遊式日本庭園が広がっており、築山には東屋、腰掛待合、茶室が残されています。主屋の左奥には、離れ「懐徳亭」（国登録文化財）があり、落ち着いた佇まいの和室から眺められる庭園の美しさも魅力の一つです。

📷 書院造の離れ懐徳亭（上）
地元の中学生と清掃活動をする様子（下）

特定非営利活動法人
くびきのお宝のこす会

所在地 ● 上越市頸城区百間町711



頸城区



110 かりがねじょうあと 雁金城跡



狼煙台からの眺めが素晴らしい、 中世の山城

別名雁ヶ音城・花ヶ崎城ともいい、標高156mの中世の山城です。上杉謙信公の時代には、春日山城の支城としての役目を果たしたと考えられています。山頂付近の狼煙台からは、北方に大池、小池、日本海、大湊区の朝日池、頸城区の水田地帯、西方に春日山城跡、南方に妙高山・焼山などの景観に連なる山々、東方に浦川原の村々が眺望できます。城下に通る花ヶ崎街道（越後府中から直峰城に通ずる道）を監視する要衝に位置し、郭や空堀等がよく残っています。

📷 大池から望む雁金城跡全景（上）
雁金城跡本丸（下）

雁金城跡保存会

所在地 ● 上越市浦川原区上岡市之口1748ほか



頸城区



浦川原区





吉川区

19 ながみねじょうし 長峰城址



大規模な土塁や空堀が残る、近世はじめの平城

長峰城は、上野国（群馬県）大胡城主であった牧野忠成が元和2年（1616）に築いたお城です。城の北側に周囲2.6km、面積約22haに及ぶ長峰池、南側に犀ヶ池（現在は開拓され水田）の天然の外堀を構え、東側を深い谷内に囲まれた標高約35mの丘陵上に位置する平山城です。長峰城址には今も大規模な土塁や、版築状況がよくわかる南土塁、やぐら台などの遺構が残されています。



📍 長峰城址全景（上）
東空堀（下）

越後長峰城址保存会

所在地 ● 上越市吉川区長峰1052-1ほか



8 だいじょうじいさん 大乗寺遺産



上杉謙信公も信仰した大乗寺址に見られる遺産群

吉川区の大乗寺址鹿島神社は、単に村の鎮守というだけでなく、長い間、地域の聖域とされていたことを示す、多くの古い石塔や石仏群が残されています。大乗寺（真言宗）は春日山城からみて鬼門の位置にあり、上杉謙信公にも深く信仰されました。上杉景勝公の頃に現在の大乗寺址から春日山城に移され、慶長3年（1598）、景勝公の会津移封の際に、謙信公の廟を守って会津へ、その後米沢へと移りました。その子孫は現在米沢市の上杉神社の宮司を務めています。

📍 大乗寺遺産の五輪塔（上）
大乗寺址鹿島神社内の弘法大師堂（下）



大乗寺町内会

所在地 ● 上越市吉川区大乗寺23-1



現地調査の様子



中郷区



板倉区



57 天水分神



五穀豊穡を願って建立された、水の守り神

天水分神とは、日本神話（古事記）に登場する水の分配を司る神で、水源地や水路の分水点などに祀られます。中郷区岡川にある2基の祠のうち、左側の祠の正面に「天水分神」の文字が刻まれ、左側面には「大正十四年三月」の年月と「四ツ屋」「岡川」「八斗時」の3つの集落の名前が刻まれています。農業用水の確保は、水田農耕が生業である集落において極めて重要であることから、水源涵養や五穀豊穡を祈念して建立されたものと思われる。

○ 2基ある祠の左手正面に天水分神の文字が見える（上）
左側面には3つの集落の名前（現町内会名）が刻まれている（下）

四ツ屋町内会・岡川町内会・八斗時町内会

所在地 ● 上越市中郷区岡川ほか



36 大廣寺の秘仏



大廣寺に伝わる2軀の秘仏

薬師如来地藏菩薩坐像と、毘沙門天像の2軀の秘仏です。前者は、両手に宝珠を持つ地藏菩薩ですが、いつの頃からか宝珠が薬壺と認識され、病苦を癒す薬師如来として信仰されています。寺伝では運慶作と伝えられています。後者は、もともと清里区上田島にあった大廣寺末寺、毘沙門院に安置されていたが、廃寺に伴い大廣寺に移されたものです。全面黒漆塗りとなっていますが、当初は極彩色であったと考えられています。

○ 病苦を癒すと信仰される薬師如来地藏菩薩坐像（上）
毘沙門天像（下）

宗教法人 大廣寺

所在地 ● 上越市板倉区宮島166-乙(大廣寺)



37 焼山城址関連施設



上杉謙信公に仕え、 この地を治めた宮島氏の史跡と記録

標高 243 m の焼山城は、信濃方面へ至る関田街道を監視する重要な山城とされ、上杉謙信公・上杉景勝公に仕えた宮島若狭守吉房公の居城と伝えられています。宮島氏は景勝公の移封に伴い会津、米沢と移り住みましたが、家臣の丸山氏は当地に戻り、宮島氏先祖の墓を守り続けました。本丸には「宮嶋若狭守吉房之城」の石碑が、麓の宮島氏の館跡には宮島氏の系譜を刻む「宮島館跡源姓宮島氏略譜碑」が丸山氏により建立され、宮島氏と焼山城址の歴史を今に伝えています。



◎ 謙信公祭での狼煙上げの様子 (上)
宮島氏の系譜を刻む、宮島館跡の石碑 (下)

焼山城狼煙を上げる会

所在地 ● 上越市板倉区曾根田字焼山ほか



38 子育て地蔵街道地蔵尊



宮島地区に伝わる 2つの「子育て」地蔵尊

県道 95 号線 (上越飯山線) 沿いにある、子育てに御利益があるとされる二つの地蔵尊です。曾根田子育て地蔵尊は、石籠と呼ばれる石の塔の中に入っています。子どもが怪我や病気をしない御利益があると言われています。別所あめ地蔵尊は、本尊 1 軀と、願いが叶った人がお礼に寄進した子地蔵 64 軀が祀られています。母乳の出が良くなるようにと願う人が、地蔵の口に水飴を塗ってお参りしたことから、「あめ地蔵」と愛着を持って呼ばれています。



◎ 曾根田子育て地蔵尊 (上)
別所あめ地蔵 (下)

曾根田町内会・別所町内会

所在地 ● 上越市板倉区曾根田578-3
上越市板倉区別所5-1



63 大廣寺の仏画



十三仏が描かれた曼荼羅図と 色鮮やかな涅槃図

大廣寺に伝わる、十三仏曼荼羅図 (上越市文化財) と仏涅槃図です。十三仏曼荼羅図には、釈迦如来を中心に十三の仏が描かれています。長細い金箔で模様を描く技法、截金が多く施された優品で、室町時代の画僧、兆殿司の作と伝えられています。仏涅槃図には、釈迦入滅時の様子が色鮮やかに描かれ、「雪舟八代長谷川等玉信雪」の墨書と落款がみられます。大廣寺の涅槃会 (3月14日) で本堂に掲げられます。法要後は、団子まきが賑やかに行われます。



◎ 十三仏曼荼羅図 (上)
涅槃会で掲げられる仏涅槃図 (下)

宗教法人 大廣寺

所在地 ● 上越市板倉区宮島166-乙 (大廣寺)



68 聖の窟



親鸞聖人と恵信尼公の子、 栗沢信蓮房修業の地

標高約 560 m の丈ヶ山北斜面中腹にある自然の岩窟を利用して作られた修行道場とされ、天平年間 (729~749) に裸形上人が山岳仏教のためこの地に来て修行をしたのが始まりと伝えられています。親鸞聖人と恵信尼公の三男、栗沢信蓮房はじめ、多くの修行者らが修行の場にしたとされます。付近には展望デッキが設けられており、高田平野、日本海が眼下に開ける絶景の地にあります。現在、地滑り等により、中に入ることは出来ません。



◎ 修行の場と伝えられる聖の窟 (上)
展望デッキからの眺め (下)

聖の窟保存会

所在地 ● 上越市板倉区栗沢1



69 恵信尼公顕彰公園

えしんにこうけんしょうこうえん

板倉区



恵信尼公にまつわる言い伝えのある地

大正10年(1921)、西本願寺宝物庫から「恵信尼公十通の手紙」が発見され、その研究の結果、晩年を越後で暮らした恵信尼公ゆかりの地として栗沢集落が脚光を浴びました。この公園は、昭和5～7年にかけて栗沢集落住民一丸となり寺院の協力のもと「恵信尼公寿塔公園」として建設したものです。この土地はもともと「恵信尼公のお墓があった」「栗沢信蓮房の庵があった」等の伝承があり、晴れた日には親鸞聖人上陸の地、居多ヶ浜まで見通すことができます。

☉ 恵信尼公があつらえたといわれる「七尺の石塔」を模した五輪塔(上)公園の様子(下)

聖の窟保存会

所在地 ● 上越市板倉区栗沢1



78 箕冠山城跡

みかぶりやまじょうし

板倉区



市



戦国と未来のロマンが融合 頸城平野を眼下に遠く大熊氏の山城

標高242mの箕冠山に築かれた山城で、東に大熊川、西に小熊川が流れ外堀の役目を果たし、南は平丸峠や関田峠を越えて長野県に通じます。春日山城の支城としての役目を果たし、山全体に大規模な土木工事を施し、郭・空堀・土塁・井戸等の遺構が良く残ります。城主大熊政秀は、守護上杉氏重臣として段銭方(財政担当)を努め、その子朝秀は守護代長尾為景公、謙信公の段銭方を務め、その後、武田信玄公の忠勤な家臣となつたと伝えられます。

☉ 麓から望む箕冠山城跡(上)
本丸跡からの眺望(下)

山部地区連絡協議会

所在地 ● 上越市板倉区山部ほか



79 田井船着き場跡

たいふなつきばあと

板倉区



桜咲き誇る憩いの場 年貢米を今町湊へ運ぶ重要な船着き場

江戸時代、船着き場があったとされる場所です。この地域には当時8か所の郷蔵があり、毎年12月までに村々から年貢米が納められ、春に船着き場へ運ばれ、そこから今町湊(直江津)へ運ばれ、北前船で江戸へ廻米されたと伝わります。船着き場跡には平成7年の7.11水害を教訓に人と関川の関わりを深めることを目的に設置された「船つなぎ石」のモニュメントと、船をイメージしたベンチがあります。堤防に植樹された500mにも及ぶ桜は、春の船着き場跡を美しく彩ります。

☉ 憩いの場、船をイメージしたベンチ(上)
堤防の桜並木(下)

田井町内会

所在地 ● 上越市板倉区田井地内



80 田井国分寺地内の天神社

たいこくぶんじちないのてんじんじや

板倉区



田井字国分寺地内に鎮座する、 地域住民の心のよりどころ

祭神は「天」の付く神(天穂日命、天児屋根命、天香山命)のいずれかとされていますが、詳しくはわかっていません。大正3年(1914)に田井集落内に点在する5社を天神社境内に合祀し、現在天神社、諏訪社、神明社(2基)、八幡社、関川堤防にあった関川水神の祠の計6基が並びます。小字名に国分寺とあり、付近に条里制の区割りが見られ、周辺で土師器や須恵器が採集されることから古代の国分寺との関わりを指摘する説もありますが、定かではありません。

☉ 天神社境内地(上)
田井町内会の鎮守、境内地に鎮座する6基の祠(下)

田井町内会

所在地 ● 上越市板倉区田井414



98 板倉の「はしごのぼり」

板倉区



江戸の町火消しから伝わったとされる「はしごのぼり」

明治20年(1887)頃、針の消防組合で行われたのが始まりとされます。当時、針火防組所属の峰村治作が江戸の町火消し「いろは48組」から技を習得し、帰郷後針火防組や近隣の高野消防組合に教えました。かつては田井や南中島でも行われていましたが、現在、高野のみが行っています。木遣り唄とともに士気の高揚を図り、鷹口ではしごを支える団員のかけ声に合わせ、高さ約7mのはしごに勇ましく駆け上がる乗り手が「一本遠見」などダイナミックな技を決めます。

- 個人演技の「一本遠見」(上)
- 組演技の「大文字」を披露する様子(下)

上越市消防団板倉方面隊
所在地 ● 上越市板倉区針722-1(事務局)



現地調査の様子



10 櫛池の隕石

清里区



はるか宇宙から落下した隕石

大正9年(1920)9月16日夕方、「ゴッー」という大音響とともに飛来し、当時の櫛池村上中條の水田に落下しました。落下した際には爆音とともに水煙が10mも舞い上がったといわれています。隕石は長さ18cm、高さ9.8cm、重量4.42kgで、分析の結果、ケイ素やマグネシウムなどの鉄分が多く含まれているため磁石がつきます。現在は上越清里星のふるさと館で保管、展示されています。

- 櫛池の隕石(上)
- 櫛池隕石落下公園(下)



天文指導協力委員会

所在地 ● 上越市清里区青柳3436-2
(上越清里星のふるさと館)



18 くしいけのおおすぎ
櫛池の大スギ



**推定樹齢800年といわれる
八幡神社の大木**

清里区上中條の八幡神社境内にある推定樹齢約 800 年の大スギです。目通り 7.3m、高さ約 30m、根回り 9.0m あり、下から見上げると鬱蒼とした枝張りで、付近ではまれにみる大木です。集落で先祖代々、大切に管理してきました。現在も活動団体の保存管理により、非常に旺盛な樹勢を保っています。枯れ枝が目立ってきた令和 2 年には、樹木医による樹勢診断を行い、あわせて大杉を紹介する標柱が立てられました。

📍 大スギの全景

上中條町内会

所在地 ● 上越市清里区上中條755(八幡神社)



85 きょうがたけじょうあと
京ヶ岳城跡



**春日山城の支城として
信濃方面への防御、牽制の役目を
果たした山城**

坊ヶ池のほとりにある標高約 520 m の京ヶ岳に築かれた中世の山城で、上杉謙信公の居城である春日山城の支城とされ、城主については不明となっています。この城跡は、南北 500 m、東西 100 m ほどの城地に、現在郭 65 か所、堀切 3 か所、竪堀 10 か所、横堀 3 か所、土塁 4 か所がほぼ完全な姿で残っていて、城跡の規模、内容面では山城の典型的な遺構といわれています。

📍 坊ヶ池から見た京ヶ岳城跡(上)
本丸跡からの眺望(下)



青柳自治会

所在地 ● 上越市清里区青柳3680-1ほか



116 もくぞうあみだによらいりゅうぞう
木造阿弥陀如来立像
いたくらくきゅうさいげんじほんぞん
(板倉区旧西源寺本尊)



清里区、板倉区両地域を結ぶ、阿弥陀如来

山寺の焼打ちから逃れた僧がこの像を背に栗沢の旧家に身を寄せて預け、西源寺の本尊になったと伝えられています。西源寺は昭和 5 年に廃寺となりましたが、その後栗沢と大野集落に守護され、昭和 22 年からは清里区荒牧の福浄寺本堂内陣に安置されています。像高 62cm、寄木造で、水晶の玉眼がはめ込まれています。全体に漆箔が施され、唇に朱が残ります。鎌倉時代の制作と考えられますが、顔は後世の補修とみられ、室町時代の特徴をもちます。

📍 板倉区栗沢・大野集落から、清里区福浄寺へ預けられた木造阿弥陀如来立像

宗教法人福浄寺

所在地 ● 上越市清里区荒牧930(福浄寺)



現地調査の様子





32 越柳の雨乞い地蔵



地蔵を溜池に投げ込み 雨乞いを祈願する奇祭

この地域は昔から灌漑を溜池に頼る水不足の地域で、水不足の年には雨乞い神事が行われていました。越柳の雨乞い地蔵は大光寺石製の阿弥陀如来像で、普段は池のほとりの堂に安置されていますが、神事の際は堂から引き出して池に運ばれ、「雨を降らさないと池の泥の中に入れておくぞ！ 放り投げるぞ！」と恫喝され、縄で縛られ池に放り込まれます。平成6年6月2日、20年ぶりに雨乞い神事が行われ、その夜、恵みの雨が降ったそうです。

○ 満開の桜と雨乞い地蔵（上）
平成6年に行われた雨乞い神事の様子（下）



越柳町内会
所在地 ● 上越市三和区越柳字塩辛1504



34 岡田の春駒



地域みんなで永遠に伝える 岡田の春駒

昔から婚礼等祝いの席で踊られてきたもので、現在は毎年7月の風巻神社例大祭で奉納披露されています。江戸時代に信州（長野県）小布施から岡田に移り住んだ者が伝えたのが始まりとされ、山間部の長野県から平地への嫁入り前に踊られたとも言われています。踊り手は男性3人で、真ん中の女装の「ヨメ」が鈴のついた駒頭を持ち元気に踊り、左右の「才蔵」と呼ばれる2人がササラを振り「どうどうどう」と唄いながら三味線や太鼓、笛のテンポに乗って踊ります。

○ 風巻神社例大祭での春駒披露の様子（上）
さんわ芸能発表会での披露の様子（下）



岡田郷土芸能保存会
所在地 ● 上越市三和区岡田



49 島倉獅子舞神楽



地域の熱意 復活した獅子舞神楽を後世に！

島倉集落に江戸時代より伝承されてきた獅子舞神楽です。笛や太鼓のお囃子に合わせ、獅子と天狗の掛け合いが演じられます。一時期途絶えていましたが、集落内延寿寺の改修工事の際、獅子頭と天狗の面が発見されたことを契機に、平成13年に約70年ぶりに復活しました。復活にあたっては、旧安塚町の高沢集落から指導を受けたということです。毎年農作業が落ち着く冬期間に練習を行い、5月3日の神明神社の春祭りで奉納披露されています。

○ 神明神社春祭りでの奉納披露の様子



島倉獅子舞保存クラブ
所在地 ● 上越市三和区島倉



58 いのくちさんじょうこだいじ 井ノ口三丈古代詞



勇壮の中に華やかさと質実な踊り
井ノ口集落に古くから伝承されてきた民俗芸能で、冠婚葬祭や祝いの場で踊られてきました。元禄年間（1688～1704）に代官らの手でさらに工夫が加えられ、勇壮の中に華やかさがある質実な農民の踊りとして完成したと伝えられています。黒紋付、白たすき、白足袋姿の男性が、三味線と締太鼓、唄、「ドッコイー」の囃子に合わせて踊ります。毎年8月15日、集落内の八幡神社の八朔祭本祭りにおいて、奉納披露されます。

○ さんわ芸能発表会での披露の様子（上）
上越市「地域の宝」のつどいでの披露の様子（下）

井ノ口芸能保存会
所在地 ● 上越市三和区井ノ口



名立区



92 えちごさんわおんど 越後さんわ音頭



三和区の魅力が詰まった越後さんわ音頭
旧三和村が地域おこしのため昭和62年に制作した音頭です。花や木、米などの主要産品等を盛り込み、老若男女が踊りやすいアップテンポなリズムに仕上げられています。「さんわ夏祭り」や地域行事等で踊られていましたが、時代の移り変わりにより踊る機会が減少していたところ、平成27年に三和中学校の生徒が復活を提案し、再び披露されるようになりました。平成28年に活動団体が結成され、中学校の活動を下支えています。

○ 越後さんわ音頭継承普及会のみなさん（上）
さんわ夏祭りの様子（下）

越後さんわ音頭継承普及会
所在地 ● 三和区



3 えのじんじゃぎおんまつり 江野神社祇園祭



300年の伝統を誇る江野神社の夏祭り
元禄年間（1688～1704）に現在の谷口集落の牛頭天王社（祇園社）を合祀して以後、江野神社の祭りとして祇園祭を開催しています。7月7日の朝、神社のある明神山から発輿した神輿を中心に、名立大町5町内の山車6台（新町は2台）が町の中を練り歩き、夕方になると字仲町に建てられた御旅所に入ります。祭りは一週間続き、13日夜に神楽が奉納されたあと、真夜中に御輿は江野神社に戻ります。

○ 神社から神輿を出す際の発輿祭の様子（上）
町内を巡幸する山車（下）

宗教法人 江野神社
所在地 ● 上越市名立区名立大町1335(江野神社)



81 不動のブナ林

ぶどうのぶなばやし

名立区



広さ3,000haに及ぶ広大な広葉樹林

名立区の南部に広がるブナを中心とした広葉樹林で、広さは3,000haにも及びます。明治の地租改正時に集落の共有地として不動地区の集落が取得し、薪炭山として利用されてきました。現在の妙高市の西野谷・両善寺の2集落の入会も認めていたとされています。大正7年(1918)に不動施業森林組合(現 不動生産森林組合)を創立して土地を組合に移管し、現在に至っています。ブナ林のほとんどの面積を下瀬戸・上瀬戸・東飛山の不動地区3集落からなる不動生産森林組合が所有しており、市内最大の水道水源保護地域でもあります。

3,000haにも及ぶブナ林

輝く里不動の会

所在地 ● 上越市名立区東飛山字入向陰阻ほか



102 岩屋堂観音堂

いわやどうかんのんどう

名立区



市



越後三十三観音の第一番札所

大宝2年(702)泰澄大師の創立と伝えられ、鎌倉幕府5代執権北条時頼が越後回国の際に定めたとされる越後三十三観音の第一番札所です。本尊は聖観音菩薩で、50年に一度御開帳されています。境内は、大巖石板、天を覆う大巖と自然の岩盤で形成されており、堂に覆いかぶさる大巖には、弘法大師の投げ筆といわれる梵字跡があります。また、上杉家ゆかりの墓碑もあり、上杉家より手厚い信仰を受けたことがうかがえます。

岩屋堂観音堂境内の様子(上)
境内地の石仏群(下)



岩屋堂町内会

所在地 ● 上越市名立区名立大町842



市内一円

4 「義の心」

ぎのこころ

上杉謙信公に学ぶ「義の心」

「義」は人間の行動・思想・道徳で「よい」「ただしい」とされる概念で、上杉謙信公は、義を重んじた武将とされています。謙信公の居城、春日山城麓の林泉寺には、謙信公自筆と伝えられる「第一義」の額が残されています。この語句は謙信公の思想と人となりを如実に表したものと広く知られています。「義の心」の会では、謙信公家訓と伝えられる16箇条の「宝在心」をよりどころとしながら、「義の心」を市内外へ発信しています。

一義会との交流の様子(上)
林泉寺で座禅をする様子(下)

謙信公「義の心」の会



17 頸城松坂

くびきまつさか

上杉謙信公の時代に伝わった、越後の祝い唄

頸城地方の祝言唄で、唄の途中で「ハアーコリヤコリヤ」の囃子が入ります。めでたい若松、高砂、長寿万歳のおじいさん、おばあさん、鶴、亀、五葉の松が出てくる、結婚披露宴などでも唄われます。上杉謙信公の時代にこの地へ伝わってきたとされています。「松坂」は伊勢神宮参拝の要路である松坂の伊勢踊りが、伊勢神宮の信仰と共に全国に広まったものといわれています。上越市内でも様々な地域に伝わっています。

頸城松坂を披露する様子

上越市民謡協会



索引

掲載
ページ

あ

青田川桜並木	19
青野「剣の舞」	41
荒町観音堂	27
飯田川のさくら並木	36
飯室神楽	47
石沢二十五日講	28
板倉の「はしごのぼり」	69
稲谷「だんとうの大杉」	34
井ノ口三丈古代詞	75
今泉城跡の大ケヤキ	26
岩手城山	54
岩の原小唄	34
岩屋堂観音堂	77
「宇津尾集落」	11
乳母嶽神社	16
馬塚古跡	19
恵信尼公顕彰公園	67
越後さんわ音頭	75
江野神社祇園祭	76
夷浜米大舟	40
円平坊の観世音菩薩	44
大瀧米大舟	55
大瀧町八社五社	57
大神送り	14
岡田の春駒	74
お諏訪さんの大ケヤキ	23

か

春日山節・高田花見小唄・スキー民謡 (スキー音頭・高田スキー小唄)	18
蟹池地藏尊と蟹池伝説	40
甲山八幡神社	24
雁金城跡	60
川上善兵衛生誕の地「高土」	37

北前船がはこんだもの	39
「義の心」	78
京ヶ岳城跡	71
櫛池の隕石	70
櫛池の大スギ	71
くびき野レーンパーク	60
頸城松坂	78
倶利伽羅不動尊御旗	22
謙信公代参登拝行事 南方山	22
越柳の雨乞い地蔵	73
瞽女ミュージアム高田	17
子育て地藏街道地藏尊	65
狛犬と居多神社文書	38
子安神社	24

さ

七ヶ所新田地蔵尊	27
島倉獅子舞神楽	74
乗国寺の櫓の巨樹	21
成就院跡	33
賞泉寺寺宝	42
浄善寺本堂と大ケヤキ	52
聖徳太子像	47
浄福寺本堂と法宝物	53
城山遺跡と城山神社例祭	28
「新堀川開鑿由来記録」、 「新堀川暗渠排砂揚水機場」	56
新屋敷分教場跡 (戸野目小学校第二分校)	33
戦国の名将 上杉謙信公の居城「春日山」	25
千手観音堂	32
桑谷里神楽	15

た

大廣寺の秘仏	64
大廣寺の仏画	66
田井国分寺地内の天神社	68
大乗寺遺産	61
田井船着き場跡	68
高尾コンヤナ・高尾古代詞	51
高士小学校校歌	35
高士八社五社	36
高田駅ホーム	18
高田駐屯地郷土記念館 (陸軍野砲兵第19連隊将校集会所)	21
滝寺岩跡	13
滝寺毘沙門堂	13
滝寺水芭蕉群生地	12
瀧本邸	59
谷浜・桑取昔ながらの盆踊り	15
D51テンダー型蒸気機関車 製造番号75及双頭レール	38
天水分神	63
伝統の盆踊り「十三夜」	53
トヤ峰岩跡と周辺古道	11
とよば神明社のご神木大ケヤキ	23
砦の名水横清水	10
どんどの池(弁天池)	58
どんどの石井戸	57

な

直江津舟方節	37
中正善寺獅子天狗舞	10
中ノ俣集落 角間の棚田景観	9
中ノ俣集落 猫又伝説	9
長峰城址	62
仁上のほたる	49
西横山小正月行事	16
日月神社御宝物	35
農耕牛馬装蹄場所跡と馬頭観世音碑	29
直峰城跡と旧三国街道	43

は

花まつり 白象	54
聖の窟	66
百年料亭 宇喜世	20
福島城址	39
不動のブナ林	77
古宮台場跡地	56
坊金のスギ	43
保倉川太鼓	45

ま

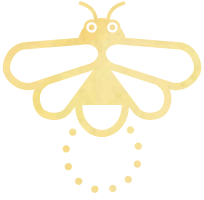
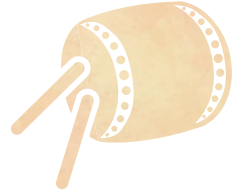
前島密翁生誕の地・献碑祭	32
牧の田植節句・お刈り上げ祝い・ とうど呼び	50
箕冠山城跡	67
水谷家と南方位山・歓喜堂	26
虫川の大スギ	46
木造阿弥陀如来立像 (板倉区旧西源寺本尊)	72
木造十一面千手観音坐像	12
本長者原廣寺跡(越後国分寺推定地)	25

や

薬師山道	48
焼山城址関連施設	65
山岡神霊位	20
山田あき歌碑	46
「横尾義智記念館」	44
横畑集落小正月行事「馬」	14
芳澤記念公園、芳澤記念館	30
米岡和みの八本桜	31
米岡のはさ木道	31

ら

レルヒ少佐が伝えた一本杖スキー技術	8
-------------------	---



上越市

「地域の宝」
ガイドブック

上越市「地域の宝」ガイドブック
2023年10月発行

〒942-8563 新潟県上越市下門前1770番地

TEL 025-545-9269 FAX 025-545-9272

